

## 科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成24年5月21日現在

機関番号：17102

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2009～2011

課題番号：21530534

研究課題名（和文） 介護労働の国際移動と異文化間介護—東南アジアからの介護労働者の参入をめぐる

研究課題名（英文） International Migration of Care Workers and Transnational Care—Upon Entry of Southeast Asian Care Workers (to Japan)

## 研究代表者

小川 玲子 (Ogawa Reiko)

九州大学・法学研究院・准教授

研究者番号：30432884

## 研究成果の概要（和文）：

日本は東南アジア諸国との経済連携協定の締結により、2008年以降インドネシアとフィリピンから介護福祉士候補者の受け入れを開始した。本研究は、日本におけるケアのグローバル化と移民の統合の課題を2つの観点から明らかにすることを目的としている。第1に、「異文化間介護仮説」として外国人介護職の参入は日本の介護現場において差別や対立を生みだすものなのか、あるいは介護の概念を多元化するような新しい介護のあり方を生み出す素地を提供するものなのか、第2に「定住化仮説」として外国人介護士が介護労働市場においてどのように構造化されていくのかを明らかにするものである。

## 研究成果の概要（英文）：

Based on the Economic Partnership Agreement (EPA) with Japan and Southeast Asian countries, Japan started to accept migrant care workers from Indonesia and the Philippines. The research aims to examine the globalization of care work and integration of migrants in Japan through two perspectives. First, whether the entry of migrant care workers will lead to discrimination and exclusion or whether the migrants will be able to exercise their agency and enrich the concept and practice of care work in Japan. Secondly, it discusses the ways in which the migrants are integrated into the care labor market.

## 交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学、社会学

キーワード：国際社会、エスニシティ

## 1. 研究開始当初の背景

日本は東南アジア諸国との経済連携協定の締結により、2008年以降インドネシアとフィリピンから介護福祉士候補者の受け入れを開始した。OECD諸国において外国人の医師、看護師、介護職の比率は増加しているが、日本において政府間協定により医療や福祉の現場に外国人が参入するのは初めてである。「感情労働」と言われる介護の分野においては、これまで外国人労働者が主として就労をしていた製造業とは異なる社会・文化的な課題が生じることが予想される。

これまでの研究で外国人介護職は、1) ホスト社会におけるゲストワーカー、2) 高齢者に対する介護者、3) 介護職のジェンダーという3つの観点から脆弱性を抱える一方で、外国人看護師を受け入れた病院ではスタッフ同士のコミュニケーションの向上などが見られ、新しい看護や介護のあり方に対する可能性も示唆された。

外国人介護職が介護の現場でどのように力を発揮できるかは、今後ますます少子高齢化が進展する中で移民政策、社会保障政策及び労働政策にとって重要な試金石になると思われる。

## 2. 研究の目的

上記の問題意識に基づき、本研究は作業仮説として2つあげる。第1に「異文化間介護仮説」として、外国人介護職の参入は、日本の介護現場において差別や対立を生み出すものなのか、あるいは介護の概念を多元化するような異文化間介護を生み出す素地を提供するものなのかどうかという点である。介護福祉士における専門性の問題については様々な議論があり、日本における介護労働の専門性が形成途上であるとすると外国人介護職の参入がどのような異文化間介護の概念、介護意識や介護行為を生み出すものなのか明らかにすることが重要である。

第2に「定住化仮説」として、外国人介護士が介護労働市場においてどのように構造化されていくのかを明らかにするものである。低賃金で人材不足に悩む介護労働の領域においても、他の外国人労働者と同じように定住化傾向が進行し、外国人労働者が支配的な職域の形成が行われるのかどうかという点を明らかにする。

## 3. 研究の方法

(1) インドネシアとフィリピンにおける看護教育や介護労働の概念についてフィールドワークと文献研究により明らかにする。

(2) 外国人介護職が働く日本の介護施設において、質的量的調査を行う。日本人職員、外国人介護職、利用者等に対する調査を通じて、仮説の検証を行う。

(3) 外国人介護職の国際移動は制度的な枠組みによる制約を大きく受けているため、インドネシア、フィリピン、日本の政府関係者や関係機関へのインタビューを行う。

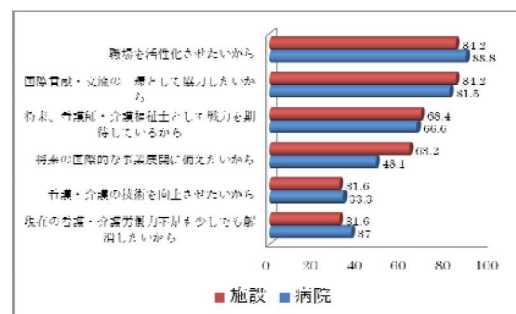
## 4. 研究成果

### (1) 外国人介護職を受け入れての職場の変化

第1陣インドネシア人介護職が配属になって1年が経過した2010年1月に、全国53の受入介護施設に質問票を配布した。期日までに返送された19施設(回収率35%)を分析対象とした結果、下記の点が明らかになった。

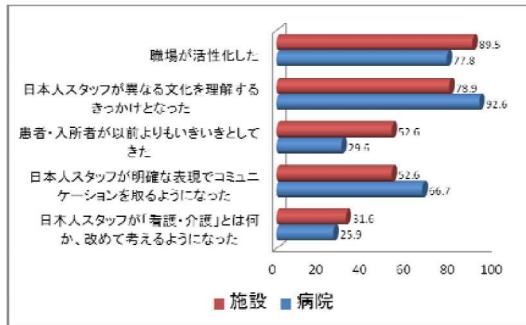
外国人介護職を受け入れた理由としては、現在の労働力不足を解消するための即戦力というよりは将来への先行投資としての受入が多く、第1陣のインドネシア人を受け入れている施設は人的にも余裕があり、人材確保に関する将来戦略がある施設であることが明らかになった(表1)。

表1 インドネシア人介護福祉士候補者の受け入れ理由



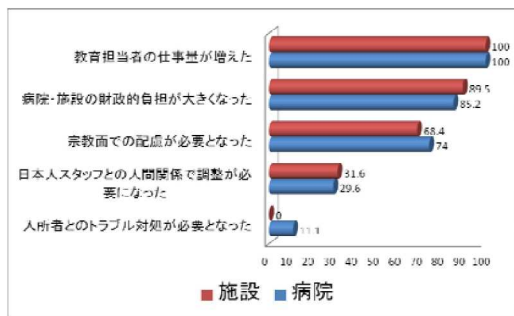
また、外国人介護職を受け入れての職場の変化については、「職場が活性化した」(89.5%) 「日本人スタッフが異なる文化を理解するきっかけとなった」(78.9%)と答えるなど肯定的な変化が見られた。さらに、半数以上の施設は「入所者が以前よりもいきいきとしてきた」と答えている(表2)。

表2 インドネシア人候補者を受け入れての職場の変化 1



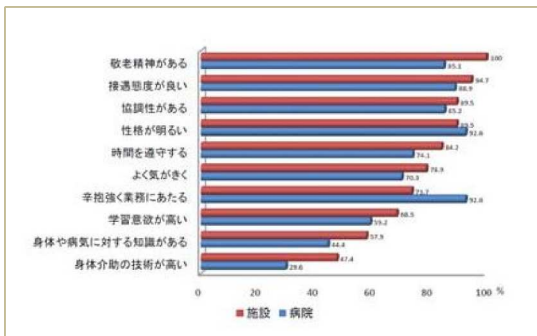
肯定的な変化の一方で、受け入れ施設は外国人介護職が国家試験に合格するまでの日本語教育と国家試験対策を研修することが義務付けられているため、「教育担当者の仕事が増えた」(100%)「財政的負担が大きくなった」(89.5%)という受け入れ側の負担感も明らかになった(表3)。

表3 インドネシア人候補者を受け入れての職場の変化 2



インドネシア人候補者の評価については100%の施設が「敬老精神がある」と答えており、「接遇態度が良い」「協調性がある」「性格が明るい」など、いずれも高い評価が出ている。

表4 インドネシア人候補者の評価



総合的に判断してインドネシア人介護職を受け入れて良かったと思うかとの問いに対しては、77.7%の施設が「良かった」「どちらかといえば良かった」と答えている。

西日本と関東の20以上の介護施設に対する質的調査においても外国人介護職は利用者とのトラブルはなく、日本人職員との関係も良好で、介護の質の向上に貢献していることが明らかになった。外国人介護職は当初は日本語があまり良く出来なかったにもかかわらず、高齢者に人気があり、職場だけでなく地域の国際化にも大きな役割を果たしている。

介護という職種は、看護と比較した場合、歴史が短く、先進国における高齢化と再生産労働の外部化が生み出した新しい職種である。また生活支援が中心になるため家事労働との境界があいまいであり、一定の標準化が可能な医療行為を伴う看護と比べると社会的文化的な差異が大きい。

フィリピンやインドネシアでは国内労働市場では介護は職業として確立していないため、外国人介護職にとっての介護労働は商品化された労働というよりは家族介護の延長線上に位置づけられる。外国人介護職の評価が高いのは家族介護における感情労働の転移が行われているためではないかと考えられ、老いや看取りや死に対する概念が社会関係とどのように関わり、ケアの現場がグローバル化することで介護の概念や実践がどのように変化するのは今後の課題である。また、今回の調査では看護教育を受けた候補者と受けていない候補者の間で介護概念や意識がどのように異なるのかについての知見を得ることは出来なかったため、今後の研究に期待したい。

## (2)外国人介護職のケア労働市場への統合

2012年1月に2009年から2011年の間に外国人介護職を受け入れた全国264の介護施設を対象に質問票を配布した。期日までに返送された86介護施設(回収率33%)を分析対象とした結果、下記の点が明らかになった。

(1)の調査で明らかになったように、受け入れ施設は候補者を国家試験に合格させるための負担感が大きく、結果として支援のあり方に大きな差が生まれている(表5、表6)。配属先による支援体制の差異は、外国人介護職にとって大きな不満の原因となっており、一定程度の研修体制の確立が必要である。

表5 候補者の教育にかかる時間 n=65

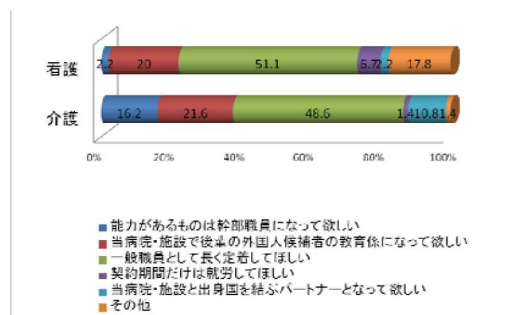
1人当たり	日本語教育	国家試験対策
全く教育していない	4.6%	12.3%
週に1時間以内	36.9%	47.7%
週に1～3時間	32.3%	29.2%
週に3～5時間	17%	6.2%
週に5時間以上	9.2%	4.6%

表6 候補者の教育にかかる経費 n=70

1カ月1人当たり	教育経費 (%)
全くかけていない	25.7
5,000円以下	20
5,001～10,000円	12.9%
10,001～20,000円	22.8
20,001～30,000円	12.9
30,000円以上	5.7

また、回答があった施設のうち90%は候補者の将来の勤務について期待していることがある、と答えており、その内容は表7のとおりである。

表7 候補者の将来の勤務に対する期待



質的調査でも優秀な外国人には管理職への登用の道を開き、戦略的に人材育成を進める施設と、国家試験に対する支援を提供する余裕もなく、即戦力として活用するにとどまる施設とに両極化が進んでいることが明らかになった。

受け入れ後3年が経過し、受け入れ施設の減少が続く中、候補者に対する満足度が高い施設ほど今後の受け入れを希望しており、優秀な候補者と外国人介護職の活用に関する

ビジョンがある施設による受け入れを進めて行くことが、ケアの質の向上、施設経営の安定、介護の専門性の確立、高齢者の幸福等の観点から重要ではないかと思われる。

#### 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 40 件)

1. Reiko Ogawa, Conceptualizing Transnational Migration of Care Workers: Between 'skilled' and 'unskilled', *ASIEN The Journal on Contemporary Asia*, reviewed, 2012 (forthcoming).

2. Reiko Ogawa, Globalization of care and the Context of Reception of Southeast Asian Care Workers in Japan, *Southeast Asian Studies*, reviewed, Vol. 49(4), 2012, p570-593.

3. 小川玲子、「外国人介護職の受け入れをめぐって—ケア概念の共有と実践の課題」『社会福祉研究』、査読なし、第13号、2012年、p114-119.

4. Yuko Hirano, Reiko Ogawa, Shun Ohno, A Comparative Study of Filipino and Indonesian Candidates for Registered Nurse and certified Care Worker coming to Japan under Economic Partnership Agreements: An Analysis of the Results of Questionnaire Surveys on the Socioeconomic Attribution of the Respondents and their Motivation to Work in Japan, *Southeast Asian Studies*, reviewed, Vol. 49(4), 2012, p594-610.

5. Yoshichika Kawaguchi, Yuko Hirano, Reiko Ogawa and Shun Ohno, Exploring Learning Problems of Filipino Nurse Candidates Working in Japan: Based on the Results of a Practice National Board Examination of Japan given in English, *Southeast Asian Studies*, reviewed, Vol. 49(4), 2012, p643-651.

6. 小川玲子、平野裕子、川口貞親、大野俊、「来日第1陣のインドネシア人看護師・介護福祉士候補者を受け入れた全国の病院・介護施設に対する追跡調査(第1報) —受け入れの現状と課題を中心に」『九州大学アジア総合政策センター紀要』査読有、第5号、2010年、p85-98.

7. Reiko Ogawa, Migration of Indonesian Care Workers under the Japan-Indonesia Economic Partnership Agreement, *Urban Policy Studies*, reviewed, Vol. 4, 2010, p61-75.

8. 平野裕子、小川玲子、川口貞親、大野俊、  
「2 国間経済連携協定に基づくインドネシア  
人看護師候補者導入に関する研究：受入病院  
に対する調査から」『看護管理』査読有、第  
20 卷 (6)、2010 年、p509-515

9. 平野裕子、小川玲子、川口貞親、大野俊、  
「来日第 1 陣のインドネシア人看護師・介  
護福祉士候補者を受け入れた全国の病院・介  
護施設に対する追跡調査 (第 2 報) - 候補者  
及び経済連携協定スキームの評価に関連す  
る要因の分析を中心に」『九州大学アジア総  
合政策センター紀要』査読有、第 5 号、2010  
年、p99-111.

10. 平野裕子、小川玲子、川口貞親、大野俊、  
「来日第 1 陣のインドネシア人看護師・介  
護福祉士候補者を受け入れた全国の病院・介  
護施設に対する追跡調査 (第 3 報) - 受入の  
実態に関する病院・介護施設間の比較を中  
心に」『九州大学アジア総合政策センター紀要』  
査読有、第 5 号、2010 年、p113-125.

11. 小川玲子、王増勇、劉曉春「東南アジア  
から東アジアへの国際移動と再生産労働の  
変容」査読なし『アジア女性研究』第 19 号、  
2010 年、p19-39.

12. Reiko Ogawa, Eun Shil Kim, Frank  
Tsen-Yung Wang, Hsiao Chun Liu, Transnational  
Migration from Southeast Asia to East Asia and  
the Transformation of Reproductive Labor:  
Comparative Study between Korea, Taiwan and  
Japan, Visiting Researcher's Research Paper,  
2010.03. p1-116.

[学会発表] (計 35 件)

1. Reiko Ogawa, Migration of Southeast Asian  
Care Workers to Japan: Three Years after its  
Implementation, Population Dynamics in East  
and Southeast Asia, 2012.03.29, British  
Academy and Royal Society.

2. Reiko Ogawa, Southeast Asian Migrants and  
Care Work in Japan, 1st World Congress on  
Healthy Ageing, Symposium on Social Policy  
and Long Term Care, 2012.03.22, Kuala Lumpur  
Convention Center.

3. Reiko Ogawa, Conceptualizing Transnational  
Migration of Caregivers: Skills, Expectations and  
Dilemmas, International Migration of Highly  
Skilled Workers to Japan and Germany: Current  
Models and Future Outlooks, 2011.12.16,  
University of Hamburg.

4. Reiko Ogawa, Globalization of Care in East  
Asia, Workshop between Center for International  
Studies, Inha University and Kyushu University:  
New Facets in East Asian Dynamism-Lingering  
Tension and Growing Cooperation, 2011.11.10,  
Kyushu University.

5. Reiko Ogawa, Potential and Risk for  
Migration of Indonesian Care Workers, The  
Preparation Program for Indonesian Nurses who  
will work in Japan to Prevent the Job and  
Socio-cultural Stress, 2011.07.28, University of  
Indonesia.

6. Yuko Hirano, Transition of Indonesian Nurses  
and Care workers to Japan, The Preparation  
Program for Indonesian Nurses who will work in  
Japan to Prevent the Job and Socio-cultural  
Stress, 2011.07.28, University of Indonesia.

7. Yuko Hirano, and Kawaguchi, Yoshichika,  
Problems of Education and training for  
Indonesian nurse candidate for Japan, The  
Preparation Program for Indonesian Nurses who  
will work in Japan to Prevent the Job and  
Socio-cultural Stress, 2011.07.28, University of  
Indonesia.

8. Reiko Ogawa, Globalization of Communities  
for Care, Anthropology of Japan in Japan (AJJ)  
2011 Annual Spring Workshop, 2011.04.23,  
Kanazawa University.

9. Reiko Ogawa, Philippine Care Workers and  
Cross Cultural Care, The Second Philippine  
Studies Conference of Japan: Remapping the  
Philippines in the Globalizing World, 2010.11.14,  
Tsukuba University.

10. Yuko Hirano, A Study of Foreign Nurses  
Accepted by the Economic Partnership  
Agreement-A Comparative Study of Filipino and  
Indonesian Nurses, The Second Philippine  
Studies Conference of Japan: Remapping the  
Philippines in the Globalizing World, 2010.11.14,  
Tsukuba University.

11. Reiko Ogawa, Migration, Care Work and  
Gender, International Conference on Family  
at-Risk, 2010.11.09, National Taiwan University.

12. Reiko Ogawa, Potential and Risk for  
Transnational Mobilities for Care, Fukuoka  
Active Aging Conference in Asia/Pacific 2010,  
2010.10.31, Fukuoka University.

13. Yuko Hirano, *Accepting Indonesian Nurses in Japan: A Comparative Survey between Hospitals and Long-term Care Facilities*, Fukuoka Active Aging Conference in Asia/Pacific 2010, 2010.10.31, Fukuoka University.

14. 小川玲子、「グローバル化するケア労働—経済連携協定による東南アジアからの介護福祉士の国際移動を中心に」、日本平和学会春季研究大会、2010.06.20. お茶の水女子大学.

15. 小川玲子、「グローバル化するケアと東南アジアからの介護職の受け入れ」、福祉社会学会開催校企画シンポジウム、2010.05.29、九州大学.

16. 平野裕子、「二国間経済連携協定に基づくインドネシア・フィリピンからの看護師の受入—そのインパクトと今後期待される可能性について」福祉社会学会開催校企画シンポジウム、2010.05.29、九州大学.

17. 平野裕子、「二国間経済連携協定に基づく外国人看護師・介護福祉士候補者の導入—その課題と可能性」日本保健医療社会学会、2010年5月16日、山口県立大学.

18. 小川玲子、「全国の受け入れ病院・介護施設の意識—受け入れから1年を経て—」2010.02.27、東南アジアから日本へのケアワーカー移動をめぐる国際会議、九州大学.

19. 小川玲子、王増勇、劉曉春、「東南アジアから東アジアへの国際移動と再生産労働の変容」、2009.11.29、アジア女性会議、北九州男女共同参画センター.

20. 小川玲子、平野裕子、安立清史、川口貞親、大野俊、「二国間経済連携協定に基づく外国人看護師・介護福祉士の導入に関する研究(2)インドネシア人看護師・介護福祉士候補者の受け入れ病院・施設の比較調査」、2009.10.11. 日本社会学会、立教大学.

21. 平野裕子、小川玲子、大野俊「二国間経済連携協定に基づく外国人看護師・介護福祉士の導入に関する研究(3)フィリピン人候補者の属性と意識に関する調査」2009.10.11. 日本社会学会、立教大学.

22. Reiko Ogawa, *Globalization of Care and the Context of Reception in Japan, Transnational Mobilities for Care: State, Market and Family Dynamics in Asia*, 2009.09.10, National University of Singapore.

23. 平野裕子「日本インドネシア経済連携協定に基づくインドネシア人看護師の受け入れに関する研究」日本保健医療社会学会、2009年5月16日、熊本大学.

24. Reiko Ogawa, *Transnational Migration of Care Workers: A New Phase of Multi-Cultural Japan?*, *Anthropology of Japan in Japan*, Doshisha University, 2009.04.25.

〔図書〕(計1件)

佐竹眞明、小川玲子、堀芳枝(訳)、リディア・N・ユー・ホセ(編著)『フィリピンと日本の戦後関係—歴史認識、文化交流、国際結婚』、明石書店、2011.12.

〔産業財産権〕  
○出願状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

○取得状況(計0件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕  
ホームページ等

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

小川 玲子 (Ogawa Reiko)  
九州大学・法学研究院・准教授  
研究者番号：30432884

### (2) 研究分担者

平野 裕子 (Hirano Yuko)  
長崎大学・医師薬学総合研究科・教授  
研究者番号：50294989

### (3) 連携研究者 なし ( )

研究者番号：